

COOP Calendar

11月号

November 2021

Vol.168



無観客・WEB配信で行われた第42回宮城県生協組員集会

CONTENTS

<p>県連役員エッセイ……………1 宮城県生協連理事 尾本 満雄「協同組合間協同に思う」 (みやぎ仙南農業協同組合常務理事)</p> <p>宮城県生協連の活動……………2 ・宮城県生協連第52回総会(2021年度)第2回理事会報告 ・2021年度生協配達灯油「夏灯油精算価格」「冬灯油暫定価格」 ・「令和3年度東北地方LPガス懇談会」参加報告 ・福島第一原発ALPS処理水対策PTによる意見交換会参加報告 ・「消費者のくらしと権利を守る第42回宮城県生協組員集会」をオンラインで開催</p>	<p>会員生協だより……………5 ・みやぎ生活協同組合 ・生活協同組合あいこーぷみやぎ ・宮城教育大学生生活協同組合 ・宮城労働者共済生活協同組合</p> <p>平和のとらきみ……………8</p> <p>環境のとらきみ……………9</p> <p>NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体 ネットワークみやぎの活動……………10</p>	<p>適格消費者団体 認定NPO法人消費者市民ネットどうぼくの活動……………11</p> <p>公益財団法人 宮城県ユニセフ協会の活動……………12</p> <p>公益財団法人 MELONの活動……………13</p> <p>新聞記事紹介……………14</p> <p>資料……………23</p>
---	---	--



県連役員エッセイ

「協同組合間協同に思う」

宮城県生協連理事 尾本 満雄
(みやぎ仙南農業協同組合常務理事)

「思い、つなぐ めぐみ野産直収穫祭－顔とくらしの見える産直 50 年の歩み－」を読み続けるうちに、ふと 30 数年前を思い出し、「仙南地区広域営農団地十年史」を読み返す機会を得ました。

昭和 62 年、JA 宮城中央会大河原支所に着任した私は、仙南加工連の存在に衝撃を受け、豚肉と梅干が強烈なイメージとして残っています。

仙南加工連には窪田立士^{りっし}常務理事がおり、通称「窪田学校」は協同組合の思想や事業を学ぶ場所とされ、常々「この加工連は 7 農協の加工場である」また『我々は、二人寄ったら農協を語ろう』を合言葉に、「仙南地域の農協間協同を思想的にも事業的にも実践している」と話されていました。

昭和 41 年に仙南管内 10 農協（現 JA みやぎ仙南）は、「仙南地区広域営農団地」を設立し、農民の所得向上を図るための歩

みを始めました。

この構想は後に、宮城県内 10 営農団地設立、農協間協同の実践へと発展していきました。

めざしたものは販売力の強化であり「売ることを考え、次に作ることを考える」という、まさに「マーケットイン」の思想でした。

そのシンボルが、昭和 44 年設立の「こんにやく加工組合」であり、昭和 48 年設立の仙南農産加工農業協同組合連合会（加工連）です。

当時、全国農協中央会が全国的に掲げた生産団地としての営農団地構想とは、一線を画すもので農協間協同の先駆けとなったものです。

「思想（意思統一）の成熟があり、熟度に応じて事業が生まれ、施設が付随するそしてその成果が組合員に所得として還元される」ことが農協間協同の意義であり、さらに昭和 45 年当時の角田市農協と県民生協、学校生協、大学生協との産直に活動

分野を拡大、加工連を窓口に協同組合間協同へと発展し、現在の「めぐみ野」に受け継がれています。

十年史の最後に、「団地設立 10 年を迎えるが、事業優先となり世代交代も相まって農協間協同に関する意識が薄れてきている」と自省し、意義を改めて明確にし、研修や会議、体制の整備、位置づけの明確化を図っています。

JA みやぎ仙南としても改めて「学ぶこと」、そして実践に携わる「人づくり」を大切にし、協同組合間協同、産消提携活動を未来へつなげていきたいと思えます。



【発行】
めぐみ野産消提携推進協議会・みやぎ生協

宮城県生協連の活動

宮城県生協連第 52 回総会（2021 年度）第 2 回理事会報告

第2回理事会は、9月14日(火)午後1時30分より、フォレスト仙台5階会議室において開催され、理事11人、監事3人、顧問1人が参加しました。(内、理事5人、監事1人がWEB参加)

議長に大越健治副会長理事を選任し、議事に入りました。

【議決事項】

2021年度冬灯油暫定価格決定の方法変更及び決裁規程別表変更の件について、野崎和夫専務理事より提案があり、原案通り可決承認されました。

【協議事項】

2021年度県知事懇談会・2021年度政党懇談会の開催計画について、野崎和夫専務理事より提案があり、協議しました。

【専務理事専決事項の報告】

2021年度夏灯油暫定価格再改定の件について、野崎和夫専務理事より専決したことの報告があり、全員異議なく了承しました。

【報告事項】

1. 新型コロナウイルス感染症に関連した取り組みについて、出席した理事、監事より報告があり、全員異議なく了承しました。
2. 第52回通常総会開催報告、令和3年度消費生活協同組合等指導検査、宮城県協同組合こんわ会の活動、アルプス処理水海洋放出に反対する署名の取り組み、NPO法人消費者市民ネットとうほくの活動、その他の活動について、野崎和夫専務理事より報告があり、全員異議なく了承しました。

3. 平和・憲法9条関連報告、第42回宮城県生協組合員集会開催準備報告、消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎの活動、消費税率引き上げをやめさせる活動について、加藤房子常務理事より報告があり、全員異議なく了承しました。
4. NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎの活動について、渡辺淳子常務理事より報告があり、全員異議なく了承しました。

【文書報告事項】

行政・議会関連、各種委員推薦等について、文書により報告がありました。

2021年度生協配達灯油「夏灯油精算価格」「冬灯油暫定価格」

夏灯油はお任せ給油のみとなります。組合員への割り戻しはありません。

冬灯油の暫定価格は、原油価格の上昇にともない、国内卸価格が冬灯油暫定価格提案時より

値上がりしたことから、11月1日(月)から暫定価格を変更しました。

2021年度夏灯油精算価格	2021年度 冬灯油暫定価格 配達期間：2021年9/27(月)～2022年4/22(金)				
	対象期間	9/27(月)～10/29(金)		11/1(月)～	
お任せ給油価格(税込) 配達期間：4/26～9/24		1㍗あたり	18㍗1缶あたり	1㍗あたり	18㍗1缶あたり
1㍗あたり 95.19円		98.0円	1,764円	107.0円	1,926円
18㍗1缶あたり 1,713円		99.0円	1,782円	108.0円	1,944円

宮城県生協連の活動

「令和3年度東北地方LPガス懇談会」参加報告

9月16日(木)、「令和3年度東北地方LPガス懇談会」がオンラインにて開催され、消費者、LPガス販売事業者、学識経験者や行政等から32人が参加しました。

東北大学大学院経済学研究科の吉田浩教授が議事進行を行い、「LPガスの料金透明化・取引適正化の現状」「LPガスの災害対応能力」について資源エネルギー庁から、「令和2年度及び3年度の流通経営調査の概要」につ

いてエルピーガス振興センターから報告がありました。

その後、テーマ毎に参加者から質問・意見等が出され活発な意見交換が行われました。宮城県生協連の加藤房子常務理事が消費者委員として参加し、「LPガス事業者のHP開設や情報内容の更新等について、各事業者任せにするのではなく、各県のLPガス協会が支援することが必要ではないか」など発言しました。

料金透明化や取引適正化を果たす上で、事業者からの消費者への丁寧な説明が重要であることが理解できました。

昨今災害が多い中、ライフラインが寸断された状況においても、LPガスによるエネルギー供給を安全かつ迅速に行うことを目的として開発された「災害対応型LPガスバルク供給システム」に関する報告がありました。

宮城県生協連と立憲民主党宮城県総支部連合会 福島第一原発ALPS処理水対策PTによる意見交換会参加報告

東京電力福島第一原子力発電所のトリチウム等を含むALPS処理水の海洋放出問題をめぐり、立憲民主党宮城県総支部連合会の県会議員と沿岸部の市会議員によるプロジェクトチーム(以下、PTと略す)との意見交換会が、10月18日(月)仙台ビジネスホテルの会議室において開催され、宮城県生協連から5人が参加しました。

PT座長の熊谷義彦県会議員の開会挨拶後、PT事務局長の境

恒春県会議員から出席者の紹介がありました。

宮城県生協連の野崎和夫専務理事から福島第一原発ALPS処理水の海洋放出に関しての宮城県生協連及びみやぎ生協・コープふくしまなどの取り組みを説明、加藤房子県連常務理事からALPS処理水の海洋放出に関する学習会に参加した方々の声の紹介、生協あいコープみやぎの高橋千佳理事長から原発のない社会を目指した取り組みなどの

説明がありました。

その後、参加者から質問・意見等が出され、消費者への影響、必要な政策等について、意見交換が行われました。



意見交換会の様子

参加者	立憲民主党宮城県総支部連合会 福島第一原発ALPS処理水対策PT	竹谷英昭議員(多賀城市)、熊谷義彦県会議員、岸田清実県会議員、境恒春県会議員、三浦ななみ県会議員、いのまた由美議員(仙台市)、小野寺俊朗議員(気仙沼市)、田山英次事務局次長
	宮城県生協連	宮城県生協連:野崎和夫専務理事、加藤房子常務理事 みやぎ生協:松木弥恵地域代表理事、池町江美子生活文化部課長 生協あいコープみやぎ:高橋千佳理事長

宮城県生協連の活動

「消費者のくらしと権利を守る第 42 回宮城県生協組合員集会」をオンラインで開催

9月29日(水)、「消費者のくらしと権利を守る第42回宮城県生協組合員集会」を、仙台サンプラザホールよりオンライン開催しました。各地の組合員集会室など21か所のサテライト会場および個人宅から、約400人の視聴参加がありました。

司会を、宮城労働者共済生活協同組合事業推進部次長の佐々木雅彦さんが行いました。

冬木勝仁会長理事から主催者挨拶があり、昨年は新型コロナウイルスの関係から中止した。本年度は、当初、組合員集会室などのサテライト会場・個人宅から参加いただくオンライン併用型の集会を予定していたが、第5波と呼ばれる感染拡大状況をふまえ、WEB配信型のオンラインのみの集会として開催することにしたことの報告がありました。

続いて、宮城県生協連会員生協のコロナ禍の中でも組合員とつながるための活動に取り組んだことについて、生活協同組合あいコープみやぎ理事の太田代一世さんから紹介がありました。

次に、リレーアピールをオンラインでご報告いただきました。

「東日本大震災から10年被災者の現状と課題」について、東日本大震災復旧・復興支援み

やぎ県民センター事務所長の神倉功さんから、被災者世帯に伴走型で寄り添い、生活・住まい再建を支援する「災害ケースマネジメント」が求められるとお話がありました。

「みやぎ子ども食堂ネットワークの取り組み」について、特定非営利活動法人せんだいこども食堂代表理事の山城秋美さんから、宮城県内に約100か所あるこども食堂実施団体の支援を通じて、宮城県内のこども食堂の輪を広げていくことを目的に設立されたもの。こどもを取り巻く環境を整えて地域で、こども・家族を支え合うことが求められているとお話がありました。

「核兵器をなくすために私がしていること」について、KNOW NUKES TOKYO 共同代表の中村涼香さん(上智大学3年)から、被爆地長崎で生まれ育ち、核兵器廃絶を目指して情報共有と活動の場をつくろうと団体を発足させ、仲間と一緒に国会議員に意見を聞き、ウェブサイト「議員ウォッチ」で公開している。政治家と市民のどちらにも関心を持ってもらい、核廃絶を選挙の争点にしたいとお話されました。

その後、仙台チェーンアンスンブルの7人によるコンサー



リレーアピールでの報告

ト「音楽でみんなに笑顔を」が行われ、♪上を向いて歩こう♪みあげてごらん夜の星をなどの歌と演奏がありました。

最後に、実行委員長のみやぎ生活協同組合理事の佐藤由紀さんが、集会決議の提案をオンラインで行いました。(後掲)

集会に対し、自由民主党宮城県支部連合会会長の西村明宏様、公明党宮城県本部代表の庄子賢一様、立憲民主党宮城県総支部連合会代表の安住淳様、日本共産党宮城県委員会委員長の中島康博様・副委員長のふなやま由美様からメッセージを頂戴いたしました。

会員生協だより

みやぎ生協

「アルプス（ALPS）処理水の海洋放出に関するオンライン学習会」

9月8日（水）に行われたこの学習会は、宮城県内から約80人、そして全国の生協を通じて呼びかけ、合わせて250人を超す参加者が集まりました。これまでも様々なオンライン学習会を開催してきましたが、これだけの参加者は過去最高で、アルプス処理水の海洋放出問題に対する関心の高まりから反対する声や世論につながり、全国的



福島大学食糧学類
林薫平准教授

にも賛同の輪が広がっています。

当日は「豊かな海を後世に引き継ぐために」と題して、福島大学食糧学類の林薫平准教授に講師をお願いしました。林さんは講演の中で、「アルプス処理水海洋放出については国民的議論で進めていくべきだ。福島の漁業者だけで判断すべき問題ではなく、国民的議論を尽くし、国民の信頼を得たうえで判断し、責任を明確にすべき。傍観者のような意見ではなく、福島の復興も含めて自分が関わることとして議論することが大切。大変なことが福島に凝縮している、それでいいのか。疑問、関心を持ち自分の身の回りからどのよ

うな取り組みを起こしていくことが必要なのか考えてほしい」と話をされていました。

参加者からは「アルプス処理水とは何となく知っていたものの内容は曖昧でした。国民に理解できる内容の説明が必要です。私にできる事から始めたい」「福島だけでなく地球規模の問題だと思った。海・森・農が繋がっているという自然の大切さを感じました」など、自分事として考え、行動していかななくてはならないとの思いの感想がたくさん寄せられました。

【アルプス処理水海洋放出に反対する署名】

10/31 現在 **50,385** 筆

（生活文化部課長 池町江美子）

「みやぎ生協子ども食堂エールアクション」

今年2月28日に立ち上がった「みやぎ子ども食堂ネットワーク（以下ネットワーク）」。

みやぎ生協ではネットワークの一部事務局を担い、宮城県内の子ども食堂の活動を応援しています。具体的には、食品等を寄付したい企業・団体・個人の受け入れ窓口、コーディネート、寄付された物品の引き渡し、子ども食堂を立ち上げたい人からの相談対応、情報提供等を行っています。

またコロナ禍の影響から、社会福祉協議会や個人から、子ども食堂に支援要請が来る状況が増えています。みやぎ生協では、子ども食堂を応援する取り組みを「みやぎ生協子ども食堂エールアクション」と称し、これまでの支援に加えてネットワークへ登録する子ども食堂1団体に対し食品等の購入ができる支援として、COOPギフトカードを5万円、総額300万円を寄付することにいたしました。



10月20日（水）ネットワークの団体へギフトカードを贈呈しました。

みやぎ生協はネットワークへ協力しながら、社会的セーフティネットの役割を果たしていきける居場所づくりを応援します。

（生活文化部 伊藤浩子）

会員生協だより

みやぎ生協

「オンライン親子防災ワークショップ vol.1」

10月2日(土)、乳幼児の親子を対象に「オンライン親子防災ワークショップ vol.1」を開催し親子5組10人が参加しました。

「親子で一緒に考えてみよう♪防災クイズ」では、家の中や外で地震が起きた時の行動について考えました。「おもちゃがなくても遊べるよ♪」は避難所などでおもちゃがない時や普段から持ち歩いていると便利な手作りおもちゃについて、「防災時に避けて通れない大事なトイレ問題」については紙おむつで吸水

実験をしました。災害時はもちろん、渋滞時にトイレとしても役に立ちます。他にも、「ラップの使い方いろいろ紹介・ご飯パックで作るレシピ・簡単に子どもが作れるおやつ」などローリングストックと絡めた実演、講師のそねやすこさん(母とこどもと保育士の居場所『にじのおうち』主催)から子育て家族ならではの防災についてお話を伺いました。

参加者からは、「子どもも楽しく参加できる内容で良かった」



紙おむつの給水実験をするそねさん

「普段から防災の知識があれば慌てず対応できること、防災グッズの定期的な見直しなどがとても大切だとわかりました」等の感想がありました。

今後も災害に備え、「親子防災ワークショップ」を継続して開催します。

(生活文化部 佐藤妙子)

生協あいコープみやぎ

「安定ヨウ素剤配布会」に多くの希望者！

もし原発事故が起こったら、あなたはどんな行動をとるでしょうか？

福島の事故では、風向きによって、遠く離れた地域にも放射性物質が降り注ぎました。「半径〇〇キロ」より遠いから安心なんてとても言えません。より遠くへ逃げようとする避難中、渋滞に巻き込まれ、数日車で過ごすことになるかも知れません。

その間の放射性ヨウ素による被ばくを防ぐためには、手元に安定ヨウ素剤を用意しておき、万一の時に素早く服用すること

が大切です。

しかし、事前配布を求めても県も自治体もなかなか対応してくれません。それならば！と、あいコープが「安定ヨウ素剤配布会」を企画したところ、143組、600人以上もの申込みがありました。この数は原発に対する不安の表れです。

受け取り希望者の問診票は、すべて医師が事前に確認し、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、郵送での配布にも対応しました。

10月17日(日)、対面受け取り会場となったエルパーク仙台



医師の問診を受ける参加者

では、数十人が医師の問診を受け、「お話を聞いたので安心して服用できる」「原発を動かすなんてとんでもないこと」などの感想がありました。

私たちが目指すのは原発のない社会。安定ヨウ素剤なんて必要のない世の中になることを願って、これからも活動していきます。(理事 櫻井洋子)

会員生協だより

宮城教育大学生協

コロナ禍でのオープンキャンパスに学生委員会が全面協力

今年度の宮城教育大学オープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症対策として、完全予約制で、さらに参加者を午前・午後で各50人ずつに分けて2日間、計4回開催しました。

今回のオープンキャンパスでは、学部改組の説明、キャンパスツアー、個別相談コーナーを行ないましたが、その内キャンパスツアーと個別相談コーナーを宮城教育大学生協学生委員会（Team Artist）が担当しました。

キャンパスツアーでは、参加者を3つのコースに分け、コースごとに3人の学生委員を配置し、大学構内の主要施設についての説明を行ないました。施設の説明にとどまらず、参加者と積極的に交流し、不安や緊張の緩和に努めました。

個別相談コーナーでは、参加者1人につき学生委員1人が対応し、大学生活に関する疑問や不安、知りたいことなどを質問できる時間を設けました。志望



するコース・専攻と同じか、新しい学生委員が担当することで詳しい説明ができるようにしました。なお感染症対策として、パーティションを隔てて対応しました。（学生委員会 片平正道）

宮城労働者共済生協

社会課題への取り組み「子育て応援活動」

宮城労働者共済生活協同組合（こくみん共済 coop）では、社会課題への取り組みとして各種子育て応援の活動を行っており、その内、「こどもの成長応援プロジェクト」と「あんしんのタネ」の取り組みをご紹介します。

「こどもの成長応援プロジェクト」は、こどもの体力低下や孤育てを社会に認知させ、こどもの健全育成につなげることを目的としています。活動の一環として、専門家によるサポートサービス「こども相談室」や、こくみん共済「こども保障タイプ」のご加入1件につき1本の

なわとび・長なわの寄贈を行っており、これまでに51,529本のなわとび・長なわを全国の小学校や学童保育施設へ寄贈しました。宮城でも随時寄贈先を募っておりますので、ご紹介も含めてぜひ宮城労働者共済生活協同組合（こくみん共済 coop 宮城推進本部）へご連絡ください。

笑顔を咲かせる情報発信をコンセプトとしたWebサイト「あんしんのタネ」では、こどもと豊かに暮らすためのツールとして、絵本や工作を紹介しております。昨今、「コロナ禍による長引く外出自粛により、おうち時



あんしんのタネ「子どもと豊かに」サイト
<https://www.zenrosai.coop/anshin/kodomo.html>

間の遊びがネタ切れしてしまっただけという声がよく聞かれます。こどもから大人まで楽しんでいただけるさまざまな記事が掲載されておりますので、皆さまご検索のうえご利用いただけますと幸いです。

（宮城推進本部 船津優衣）

平和のとりのくみ

「平和とよりよき生活のために」をスローガンに、核兵器廃絶を訴えるとともに、憲法9条を含めた日本国憲法の良さと大事さを学び、平和を守る活動を広げていきます。

大学生協連東北ブロック

「Peace Now! Hiroshima 2021」に参加して

全国大学生協連会による企画「Peace Now! Hiroshima」に、初めて参加しました。今まで原子爆弾や戦争について学ぶ機会は少なく、断片的な知識しか持っていませんでした。このような学びの機会は貴重だと感じ、今回参加することとしました。コロナ禍で広島に赴くことができなため、岩手の自宅からオンラインツアー形式で参加しました。

9月2日(木)～9月4日(土)の3日間、広島平和記念資料館の展示や写真、石碑を見ながら学びを深めました。

特に印象的であったのが、「人影の石」の話でした。「人影の石」は、原子爆弾投下時に座っていた人の跡が影のように残されている階段です。戦後、この写真が公開された際、「これは私の家族が座っていた跡かもしれない」という問い合わせが多く集まっ

たそうです。自分の家族の最期を知りたい、生きていた証を見つけないというご遺族の方の気持ちを知り、胸が締め付けられる思いでした。

実際に伝承活動を行っている方のお話を聴くこともできました。被害を数で考えるのではなく、一人ひとりに目を向けることが大切であると感じました。戦争を知る人は年々少なくなっています。戦争の悲惨さを、後生に語り継がなければならないと痛感しました。

今回参加して、戦争についての学びを深めるとともに平和や社会の在り方について考えることができました。得た学びを共有し、私たちにできることは何かを日々、考えていきたいと思っています。

(岩手大学生協学生委員会

長澤実花)

PeaceNow!Hiroshima2021のイチオシポイント！！

オンラインでも現地を感じる！

今年はオンライン開催となりヒロシマで"学ぶ"ということが難しくなりました。しかし、実行委員みんなで知恵と工夫を凝らして、オンラインでもヒロシマで"学ぶ"ことができることを大切にしています！
特に、広島平和記念資料館の内部や広島市内の被爆建物、慰霊碑など様々な場所を写真や動画などを通して、よりリアルに"今"の広島を学び感じることで追体験ができるのは、このPeaceNow!Hiroshima2021ならではです！！



過去→現在→未来のつながり◎

PeaceNow!Hiroshima2021では「ただ戦争や原爆について学ぶ」ということではなく、「過去を学び、今に向き合い、未来を考える」という流れを大切にしています◎
ヒロシマに今なお残る問題や私たちの身近な生活に目を向けることで、平和について様々な視点から考え、話し合うことができます！
このPeaceNow!Hiroshima2021を通して、私たちにできることは何かということを考え、全国の仲間とともに行動するきっかけにしましょう！



大学生協連 HP より「Peace Now! Hiroshima2021」の紹介

みやぎ憲法九条の会

2021.11/24(水)
13:30～
仙台銀行ホール
(イズミティ大ホール)

「憲法9条を守り生かす みやぎのつどい2021 秋」

- * オープニング 合唱/宮城のうたごえの皆さん
- * 講演「自分を生きる 時代と社会に抗い 丸ごとこのいのちとして」
講師/落合恵子さん (作家・クレヨンハウス主催)
- ※ 新型コロナウイルス感染状況によっては、同会場リモート出演での講演になる場合があります。

入場
無料

《主催》 みやぎ憲法九条の会

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5階 TEL: 022-728-8812 FAX: 022-276-5160
http://miyagi.sakura.ne.jp E-mail: info@9jou.jp



環境のとりくみ

生協の環境活動は生協組合員の活動や事業における取り組みを通して、環境負荷の軽減と省エネルギー、省資源、リサイクルなどの環境保全型社会づくりに貢献していきます。

みやぎ生協

エコフィードで食品廃棄ゼロを実現！

みやぎ生協の各店舗では、客数や天候のデータを活用して売り上げを予測し、それぞれの生産数量をコントロールしながら売り場管理を行い、廃棄ロスを極力減らしています。

それでも惣菜・寿司・ベーカリー・日配品で売れ残った商品は、各店舗からリサイクルセンターの車輛で回収され、リサイクルセンター内で「エコフィード化」（食品残渣等を利用して液状化飼料）にして、栗原市内の養豚場に運び家畜（豚）の餌として再利用されています。1ヶ

月に平均 100 t ほど提供しています。

エコフィードで育った豚肉は甘みがあり、今後ブランド化も視野に入れ、みやぎ生協で供給できるか検討していきます。

また水産の魚腸骨（あら）や畜産の肉端材などは、専門業者に有価で引き取ってもらい、飼料として再利用されています。

このように回収された食品残渣が 100%再利用されているこ



みやぎ生協リサイクルセンターにあるエコフィード製造機器
右から加熱・冷却器、粉砕機で、左の2つが保管タンク

とで、CO₂ 排出量削減にもつながっています。

（リサイクルセンター長
一條智昭）

生協あいコープみやぎ

オンライン学習会「有害化学物質のない未来へ～環境安全基本法の制定を求めて～」

9月2日（木）、NPO 法人ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議の代表であり、弁護士の中下裕子さんを講師にお迎えし、「有害化学物質のない未来へ～環境安全基本法の制定を求めて～」と題してオンラインで学習会を開催し、39人が参加しました。

始めに、日本の公害の歴史や、現在の安全基準、環境基準、排出基準規制の問題点についてお聞きしました。現行の基準では曝露するタイミングの影響が考

慮されていないこと、複合曝露・複合影響が考慮されていないこと、子どもや化学物質に過敏な人の脆弱性が考慮されていないこと等、様々な問題の指摘がありました。

次にそれらの問題点を解決するために、バイオモニタリング制度で体内の汚染度を知り、胎児や子ども、化学物質の影響を受けやすい人を守るための法律を作り、地域による汚染度の違いや災害が発生した際の有害化学物質対策を行うことが重要で

あるとのお話がありました。

中下先生がおっしゃった「環境基本法の制定は私たちのためであるとともに、未来の子どもたちのためであり、今の私たちにしかできないこと。有害化学物質だらけの世界にしてしまったのは私たちだから、それが子どもたちに対する私たちの責任です」という言葉がとても心に響いた学習会でした。

（理事 佐藤あきな）

NPO 法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎの活動

介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ(略称:介護・福祉ネットみやぎ)は、良質な介護・福祉サービスの提供と健全な事業運営のため活動しているネットワーク組織です。会員数:正会員団体 18、個人正会員 18、団体賛助会員 4、個人賛助会員 64(2021年6月現在)

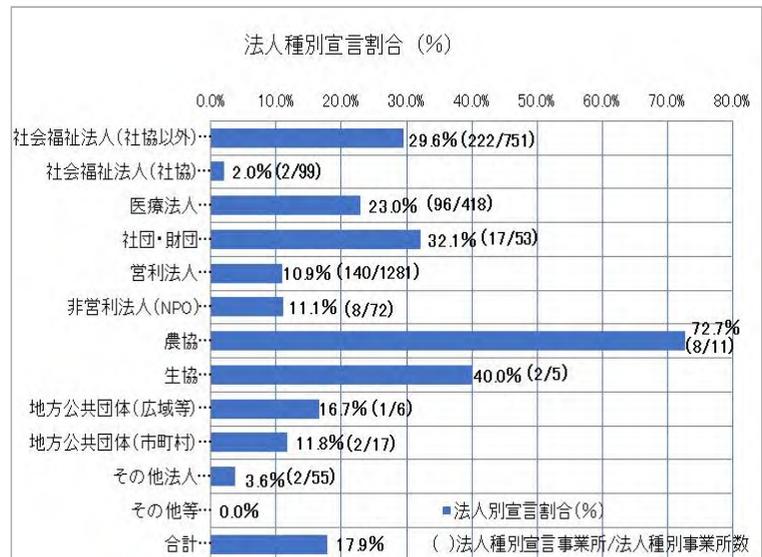
「みやぎ介護人材を育む取組宣言認証制度」

宮城県介護人材確保協議会は、2016年から認証機関として「みやぎ介護人材を育む取組宣言認証制度(以下、宣言認証制度)」の事務局を、介護・福祉ネットみやぎに委託しています。

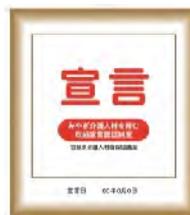
宣言認証制度は、介護人材がいる事業所を対象として運用する制度で、目的は次の3点です。①介護事業者の取り組みを公表(見える化)することで、介護人材の参入を促す。②介護事業者の職場環境のレベルアップ・改善を促し、介護人材の定着を目指す。③宮城県、各市町村、関係団体が連携し、宮城県全体が介護の職場環境改善に取り組む。

現在(2021.10.12)宣言事業所が500、第1段階認証事業所が367、第2段階認証事業所が32となっています。また、法人種別で宣言した事業所の割合が高いのが、農協、生協となっています。[表参照]

(事務局長 渡辺淳子)



認証マーク



介護人材の育成や働きやすい環境にする取組を行っていることを宣言した事業所



宣言した事業所が、第1段階認証のために必要と定めた項目を実施していることを第三者が確認した事業所



第1段階認証事業所が、第2段階認証のために必要と定めた項目を実施していることを、第三者が確認した事業所

利用者も、事業者も、働く人も、大事にする介護保険を!

みんなで考えよう介護保険

みやぎ県民フォーラム2021

Web会議用アプリ ZOOMでも参加できます!

参加費無料

12/4(土) 14:00-16:30

フォレスト仙台 2F 第7会議室

会場定員 40人

仙台市青葉区柏木 1-2-45

QRコードを読み取り、申込フォームから必要事項を入力して送信!



第1部/学習会

「新型コロナ後の社会と求められる介護保険」

講師: 正森 克也さん

(社会福祉法人こぼと福祉会理事長)



第2部/当事者・当事者を支える立場から

- ・千葉 由美さん (認知症の人と家族の会宮城県支部世話人)
- ・芳賀 明子さん (南光台地域包括支援センター所長)
- ・鹿又 喜治さん (弁護士・仙台弁護士会)

主催

みんなで考えよう介護保険! みやぎ県民フォーラム 2021 実行委員会

事務局: 宮城厚生福祉会本部 TEL022-388-9968

適格消費者団体 認定 NPO 法人 消費者市民ネットとうほくの活動

消費者市民ネットとうほく(略称:ネットとうほく)は、消費者被害の未然・拡大防止及び救済のため、消費者や消費者団体・関係諸機関・消費者問題専門家等と連携し、消費者被害の調査・研究・情報収集、是正申入れ等の活動を行っている内閣総理大臣認定の適格消費者団体です。

2021 年度「第 3 回ネットとうほく消費者被害事例ラボ」開催

9月13日(月)「第3回消費者被害事例ラボ」が開催され、オンラインを含む29人が参加しました。

今回は、「リフォーム工事請負契約等と説明義務(水回り工事契約などの問題を念頭に)」をテーマに、東北学院大学の羽田さゆり准教授が解説しました。



水回りなどのリフォーム工事の諸問題について解説する東北学院大学の羽田さゆり准教授

羽田准教授は、「ここ最近、水回り工事契約の被害が目立っており、国民生活センターによる注意喚起や各地に被害対策弁護団が結成され、ひょうご消費者ネットの不実告知※等差止請求訴訟では和解になった。請負契約は、物品売買契約と違い、価格決定が難しい契約である。契約を解消すると原状回復の問題があり、対象が住宅なので水回りなどの不具合や故障は生活に支障をきたす。価格決定の幅についても業者によって違いがあり、なされるべき仕事内容が曖昧でトラブルが発生している。その上、許可等を受けた業者に対する指導監督が十分できてい

ない」と話されました。

その後の意見交換では、ポストに入るマグネット広告の水回り修理業者とのトラブルがきっかけとなった訴訟については、「色々な事例が積み重なることで、消費者救済につながる効果はあったのではないか」また、「クーリングオフ以外での解決方法を構築できないか」などの意見が出されました。

【不実告知】

事業者が一定の重要な事項について虚偽の情報を提供したことで、消費者がその事実を誤認して契約締結をした場合、取消権を認めるものです。

【特定商取引法】

事業者による違法・悪質な勧誘行為等を防止し、消費者の利益を守ることを目的とする法律です。具体的には、訪問販売や通信販売等の消費者トラブルが生じやすい取引類型を対象とし、事業者が守るべきルールと、クーリング・オフ等の消費者を守るルールを定めている法律です。

ご存知ですか?! 特定商取引法が改正されました

「一方的に送り付けられた商品は、直ちに処分可能に!!」

消費者被害の防止及びその回復の促進を図るための特定商取引に関する法律等の一部を改正する法律が、令和3年6月9日成立しました。この改正法のうち、売買契約に基づかないで送

り付けられた商品に関する規定については、令和3年7月6日に施行されました。



これにより、売買契約に基づかないで一方的に送り付けられた商品について、これまで販売業者が返還請求できるとされていた期間が撤廃され、同日以降に送り付けられた商品については、消費者は直ちに処分を行うことが可能になりました。

また、一方的に商品を送り付けられたとしても、金銭を支払う義務は生じず、仮に消費者が

その商品を開封や処分しても、金銭の支払いは不要です。もし、事業者から金銭の支払いを請求されても応じないようにしましょう。誤って代金を支払ってしまったとしても、返還を請求することができますので、対応に困ったらお近くの消費生活センターや消費生活相談窓口にご相談しましょう。

(事務局 金野倫子)

公益財団法人 宮城県ユニセフ協会の活動

ユニセフ(UNICEF:国際連合児童基金)は、世界の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関です。宮城県ユニセフ協会は「協力協定」を締結し、県を代表するユニセフ活動の拠点として、ユニセフの広報・募金活動を実施しています。会員数:一般・学生 177、団体 6(2021年10月現在)

ユニセフ映画上映会「存在のない子供たち」

10月22日(金) せんだいメディアテークで映画「存在のない子供たち」を午前午後と2回上映し、120人が参加しました。

この映画は、長期間の戦争や内戦による貧困や移民の問題を抱える中東で生まれた男の子のお話です。出生届を出されなかったせいで社会に存在しない状況にあり、誕生日も知らず学校

に通うこともなく、劣悪な児童労働環境にある男の子が「僕を生んだ罪」で両親を訴えるという、12歳の少年の目線を通した児童労働や移民、児童婚などの問題を映し出しています。



2018MoozFilms

出生登録の世界の現状とユニセフの活動

出生登録は、子どもの国籍とその存在を公式に認めるものであり、子どもの権利条約第7条の下に定められている基本的な人権です。すべての子どもたちは出生登録され、国籍を取得す



©UNICEF_UNI59447_Ramoneda

る権利、正式な身元登録をする権利を持っています。

しかし世界の現状を見ると、データを取得できた開発途上国104か国では、子どもの出生登録率はわずか50%です。誕生時に登録されなかった子どもたちや、公的な証明を持たない子どもたちは、学校に入学できない、予防接種を受けられないなど、教育や保健ケア、社会保障から除外されてしまうことが頻繁に起こります。

また、自然災害や紛争、搾取等により家族とはぐれてしまった結果、身元を確認できず、家族のもとに帰るのは困難になってしまいます。

ユニセフは、政府と地域社会を支援しながら、市民登録と出生登録のシステムの強化を支援しています。携帯電話などが取り入れられ、革新的な取り組みを行っています。

子どもの権利とSDGs

SDGsの17の目標を「子どもの権利」という視点から見ると、重なる目標が多いことがわかります。

世界共通の課題を解決してい

くことは、世界の子どもたちの権利の実現につながります。

(事務局長 大友千佳子)



公益財団法人 みやぎ・環境とくらしネットワーク (MELON) の活動

みやぎ・環境とくらしネットワーク(MELON)は、緑と水と食をとおして暮らしを考え、地球と地球環境の保全に寄与するために、多くの市民、知識人、協同組合、企業、団体で作られた環境 NGO です。会員数:個人 437、法人 55、任意団体 9(2021 年 10 月現在)

広瀬川1万人プロジェクト「秋の一斉清掃」に参加しました！

10月2日(土)、MELON・4R部会メンバーが、広瀬川1万人プロジェクト※に参加しました。

広瀬川の自然を守り、親しみやすい広瀬川を維持するために毎年2回開催しているこの清掃活動に、MELON から何度も参加しています。

この日は多少西風が強いものの、台風一過で気持ち良い晴天となり活動日和となりました。

参加者全員でポリ袋とトングを持ち、歩きながらごみ拾いをしました。MELON が参加したのは、東日本大震災の後に復興の一環として閑上地区の川沿いにできた商業施設「かわまちテ

ラス閑上」付近の河川敷の会場です。

一見したところ、堤防斜面、その下の自転車道部分にもごみらしいものは全く見えませんが、自転車道から川の中心側の雑草(やぶ)の中を見ると、やはり所々にプラごみがありました。最も多かったのは発泡スチロール片でした。その他にはお菓子などの包装プラスチックごみが多かったです。これらは、風で飛んで来たか、この付近でポイ捨てされたものと思われる。また、中には生ごみなど明らかに家庭ごみと思われるごみが入った袋も捨てられていまし

た。最低限のモラルは守って欲しいと思いました。約 40 人の参加者で収集したごみの量は、大袋3袋分でした。

現代の私たちの生活は多くのプラスチック製品に依存しており、プラスチックをなくすことは容易ではありません。今回の清掃でもプラスチックごみの多さを再認識することになりましたが、今後もプラスチックごみは正しく処理して、海に流れ出たりすることを少しでも防げるよう努力していきたいと思いました。

(事務局長 小林幸司)

※広瀬川1万人プロジェクト

市の都・仙台のシンボルである広瀬川の自然環境を守り、多くの市民が親しめる広瀬川とするため、100 万都市仙台の 1%・1 万人をキーワードとして、市民・企業・行政などで実行委員会をつくり活動を展開しています。

主な活動は、春と秋に実施している流域一斉清掃。特に秋には「広瀬川の清流を守る条例」(1974 年 9 月 28 日公布)にちなみ、毎年 9 月の最終土曜日に流域 10 数ヶ所で一斉清掃を実施しています。



MELON・4R部会のメンバー



集められたゴミはプラスチック系が多い